

國ノ輸入ヲ仰カサルヲ得ズ特リ輸入ヲ仰クノミナ
ラス萬一事ソルノ日ニ當テハ御國威ニモ關スルノ
差支ヲ生スルモ計リ難ク且該場建設其他全備ノ上
八年々製出スヘキ火藥ハ斤量凡貳拾萬貳百五拾斤
ヲ得ルノ酌算ナリ右ノ價格拾貳萬九千四百餘圓此
價格ニ對スル正貨年々外國へ輸出スルニ至ルハ兵
備上ニ理財上ニ其利害得失瞭然ニシテ火藥製造ノ
必要缺クベカラザルハ言ヲ待々ザルナリ依テ特別
ヲ以テ興業費増額ヲ許可セラレタク増額内譯調
ヲ添ハ以テ上請ス

上呈ス

共ニ
署之

七月廿四日
八月八日

橫須賀造船所第二船渠築造費増額請求ノ件ニ

稟議

當省所轄橫須賀造船所第二船渠ノ儀ハ去ル十
一年六月二十四日ノ御指令ニ基キ築造費金貳拾四
萬四千三百貳拾九圓ヲ三ヶ年ニ下付セラルヘキ都
合ヲ以テ漸次着手シタルニ爾來物價非常ノ騰貴金
楮格外ノ差異ヲ始トシテ最前見込ノ如クナラズ到
底御許可ノ金額ニテハ落成シ難ク別紙第一表（署之）
通不足ヲ生スルニ由リ更ニ金貳拾八萬八千八百貳
拾九圓九拾九錢八厘増額アラントテ同所ヨリ申請
ス依テ二倍餘ノ増額ヲ仰クニ至ル原因ヲ糾問スル
ニ種々ノ理由有之抑該船渠築造ノ目論見ハ御國內
從來船渠ニ乏シク内外國ノ諸艦船ノ修理滯滞シ為
メニ上海其他ニ赴キ修覆ヲ要スルモ、比々有之願

百十四

テ御國ノ損耗モ少ナカラス加之英國軍艦「アイヨン
デューク」号ノ如キ大艦ニ至テハ現在ノ船渠ハ淺且
小ニシテ潮汐ノ好機ニハ偶入渠シ得ルモ時ヲ擇ハ
ス入渠修繕セシハル難シ故ニ第二船渠ハ長百五拾
六「メートル」半ニ築造シ百四拾「メートル」マテノ巨艦
ヲ容易ニ入渠セシメ且巨艦ノ入渠無之中ハ戸船ヲ
以テ全渠ノ中央ヲ劃シ中小ノ艦船二艘ツ、ヲ入渠
セシメハ頗ル便宜ナリトノ目途ヲ以テ着手セシメ
タルニ以來物價騰貴金楮差額ヲ生スルニ際シ諸職
工ノ賃錢歐洲ノ錢價意外ニ沸騰シ石材ハ豫筭ヨリ
殆ト三倍ノ價額ヲ増シ又元見積中同所雇建築家佛
國人「ジエエツト」ノ誤筭或ハ元見積ニ無之モ、等ヲ
合セ前頭ノ通増額ヲ仰カサレハ築造中止ノ外ナシ

然レニ該工事ヲ中止スルニ至ル中ハ是マテ、支消
金額ハ全ク徒費ニ帰シ右ニ使用スベキ石材其外物
品等モ不用ニ属シ艦船修理上ノ不便ハ勿論萬一非
常等ニ際シテ船渠不足ノ為メ修理澁滞ヲ来スアラ
ンニハ何等ノ不都合ヲ生スルモ計リ難ク何レニモ
増額ノ御裁可ヲ蒙ラサルヲ得ス雖然目今財政困難
ノ際多額ノ増費ヲ仰クハ深ク痛慮スル所ナレハ渠
形ヲ縮少セハ工費ヲ減殺シ使用物品ノ費額モ亦減
少スヘキニ付長廿六「メートル」半ヲ縮メ之ヲ調査ス
ルニ第二表（之略）ノ通金拾三萬七千五百拾九圓ノ不足
トナル右ハ大小何レノ方ニ築造スヘキヤ渠形ノ大
小ニ因リ一時費額ノ多寡ハ有之氏實際上ノ利害得
失ニ至テハ従前目論見ノ通築造スル方却テ利益ナ

ルベシ何ントナレハ大船渠築造、上ハ「アイヨシ」デ
イエトク、如キ大艦モ入渠差支ナキノミナラス中
小艦船ニ至テハ一時ニ二艘ヲ入渠セシムルノ便ヲ得
海軍諸艦船ハ勿論内外大小艦船ニ至ルマテ修理上
ノ便宜ナル言ヲ待タス上海其他ハ赴キ修理ヲ要ス
ベキノ船舶モ自ラ横須賀ニ於テ修繕ヲ請求スルハ
必然ナリ随テ作業上ノ益モ尠ナカラス依テ後來ノ
便益ヲ計ルニハ竝初目論見ノ通築造スルヲ可トス
且ツ開鑿既ニ四分一ノ工程ニ至リ石材戸船其外都テ
大船渠ノ積ヲ以テ調製シタルニ俄ニ縮少ノ方ニ變
換スルハ渠形ノ改鑿石材及諸物品ノ改造等ニ於
ケル意外ノ贅費ニ属スル如キモノヲラン然而大船
渠築造ニ比スレハ費用減スル所以小ナラサルモ一

時ノ費用寡額ヲ欲シテ他日ノ不便不益ヲ招カンヨ
リハ寧ロ築造費ハ巨額ヲ要スルモ後年ノ至便至益
ヲ計ルノ得策ニ如カサルカ尤財政困難ノ際強テ第
一表ノ増額ヲ要スルニ非サルモ篤ト御熟議、上曩
ニ御許可ノ金額ニ兩様金高ノ内孰レカ増加ノ上更
ニ別紙積算表^(略)、通改定去ル十一年度ヨリ來ル十
六年度迄六ヶ年ニ割合下付セラレタク御裁可アラ
シテ請フ

追テ本文第二表^(略)、金高ヲ増額セラル、其ハ最
初注文ノ石多分ノ餘贏ヲ生スベキ見込ニ有之令
右餘贏ノ分減シ方ヲ斫石受負人ニ談スルモ既ニ
夫々手配濟ノ儀ニ付容易ニ承諾セサルベク又我
ヨリ破約スレハ非常ノ官損ヲ來スベシ然ルニ談

石材之儀ハ買上置ク井ハ追々使用ノ道有之ヲ以テ
一時買石ニ充ツベキ金額アラシニハ損失ノ憂ナ
ク又受負人ノ苦情ヲ來スナキモ買上ベキ金額ナ
キヲ以テ若シ渠形短縮ノ築造ニ決定セラレシニ
ハ右石材買上金若干萬圓一時貸下ヲ仰キ該石使
用ニ應シ漸次金額還納スベキノ方法ヲ調査シ稟
議スル所アルベキモ御詮議ノ参照トモ思考スル
ヲ以テ豫メ副申ス

部議

甲 火藥製造所ノ儀ハ工場建築方法ヲ變換スル
ト機械器具ノ改良井物價ノ騰貴トニ由リ最前目途
高拾九萬七千圓餘ニ超過スル三拾五萬貳千餘圓又
乙 横須賀造船所ノ儀ハ第二船渠築造ニ要スル歐洲
ノ鏡價其他石材諸職工賃等非常ニ騰貴セシニ由リ

最前目途高貳拾四萬四千圓餘ニ超過スル貳拾八萬
八千餘圓ニ有之石ハ何レモ不得已ニ付甲ニ三拾五

萬圓乙ニ貳拾八萬圓ヲ增額セラレ之ヲ三ヶ年度ニ

割合乙ナハ横須賀造船所ノ方ハ最前目途高仕拂殘
十四年度ニ於テ交付スベキ分八萬七百六圓有
之ニ付今四増額ノ内壹萬貳千七百七拾四圓有
ノ併セ九萬三千五百圓十四年度交付額トス下付セ
ラレ然ルベシト左棧ヲ附シ上陳ス

御指令棧

乙 甲 上請ノ趣ハ火藥製造所興業費ハ三拾五萬圓横
須賀造船所興業費ハ貳拾八萬圓増加ノ儀聞届左
ノ割合ヲ以テ交付スヘシ

火藥製造所

金拾壹萬六千五百圓

十四年度

外金三萬八千三百貳拾九圓

最前裁可高ノ内十四年
度ニ於テ交付スベキ分

金拾壹萬六千五百圓

十五年度

金拾壹萬七千圓

十六年度

通計金三拾五萬圓

橫須賀造船所

金壹萬貳千七百九拾四圓

十四年度

外金八萬七百六圓

前前裁可高、由十四年度ニ於テ交付スルハキ分

金拾三萬三千六百圓

十五年度

金拾三萬三千六百六圓

十六年度

通計金貳拾八萬圓

御達棧

大 藏 省

別紙甲乙海軍省上請火藥製造所及橫須賀造船所

興業費増額、儀朱書、通及指令候條共旨相達候

事

通牒 會計検査院

受二 三月七番受
八月廿三日申 同三十日決

○威仁親王殿下隨員海軍樂手鎌田政明へ月給額洋銀給與、件

稟議

一昨十二年八月三日有栖川威仁親王殿下英艦

「アイヨンディエルク」號、御乘艦、節殿下、雜務取扱

ノ為メ海軍樂手鎌田政明ナル者ヲシテ隨從乘艦セ

シメタルニ本人ハ日給食料宿料ヲ合セ月々拾三圓

ツ、ヲ給與シタル者ニシテ外國行、上ハ從前ノ給

額ニテハ不足ナラント思考シ食料現費、外被服料

ヲ見込月額洋銀十五弗ニ定メ出帆セシメタリ抑本

百十八